

Power IQ VM クイック セットアップ ガイド

VMware ESX または ESXi をご利用の方のためのクイック セットアップ ガイド

Raritan の Power IQ をご購入いただき、ありがとうございます。このクイック セットアップ ガイドでは、Power IQ のインストール方法と設定方法について説明します。

Power IQ の詳細については、『Power IQ ユーザ ガイド』を参照してください。このユーザ ガイドは、Raritan Web サイトの **Firmware and Documentation** [ファームウェアおよびマニュアル] セクション (<http://www.raritan.com/support/firmware-and-documentation/>) からダウンロードできます。

Power IQ アプリケーションのインストール

Power IQ のインストールの準備をする

- Power IQ の .iso ファイルが収録されている DVD を用意します。
- データストアに新しい仮想マシン用として 80 GB の空きスペースを確保します。
- データストアから仮想マシンをインストールする場合は、.iso ファイル インストール用としてさらに 1.2 GB の空きスペースを確保し、DVD からデータストアにファイルをコピーします。
- リモート サーバからインストールする場合は、DVD からリモート サーバに .iso ファイルをコピーします。

注：このガイドに記載されている手順では、vSphere クライアントに言及しています。vSphere クライアントは、ESX/ESXi 4.0 以降と互換性があります。

Power IQ 仮想マシンを作成する

1. vSphere クライアントを使用して VMware サーバに接続します。仮想マシンを作成、起動、および停止する権限を持つユーザでログインします。
2. [要約] タブで、[コマンド] ボックスの [New Virtual Machine (新しい仮想マシン)] をクリックします。
3. [カスタム] を選択します。[次へ] をクリックします。
4. 仮想マシンの名前を入力します。[次へ] をクリックします。
5. 使用可能な空きスペースが 80GB 以上のデータストアを選択します。[次へ] をクリックします。
6. ホストによっては仮想マシンのバージョンを選択する必要があります。バージョンを選択します。[次へ] をクリックします。
7. [Linux for the Guest Operating system (ゲスト オペレーティング システムに Linux)] を選択し、[バージョン] ドロップダウン リストで [Other Linux (32-bit) (他の Linux (32 ビット))] を選択します。[次へ] をクリックします。

8. 仮想プロセッサの数を 1 に設定します。[次へ] をクリックします。
9. DVD ボックスに記載されている仕様をライセンス サイズのガイドラインとして使用して、仮想マシンに割り当てるメモリの量を調整します。[次へ] をクリックします。
10. NIC の枚数を 1 または 2 に設定します。NIC が 2 枚搭載されている場合は、一方を Web インタフェースへの外部アクセス用に使用し、もう一方を PDU などのデータセンター内デバイスとプライベート LAN 経由で通信するために使用することができます。
どちらの場合も、[Connect at Power On (電源オンで接続)] をオンにしていることを確認します。他の設定はデフォルトのままにします。[次へ] をクリックします。
11. [SCSI Controller (SCSI コントローラ)] で [LSI Logic (LSI Logic)] を選択します。[次へ] をクリックします。
12. [Create a new virtual disk (新しい仮想ディスクを作成する)] を選択します。[次へ] をクリックします。
13. ディスク容量を 80 ~ 160 GB の範囲に設定します。ディスクプロビジョニング オプションを指定します。[Store with the virtual machine (仮想マシンで保存)] を選択します。[次へ] をクリックします。
14. すべての詳細オプションをデフォルトのままにします。[次へ] をクリックします。
15. [Edit virtual machine settings before completion (完了前に仮想マシン設定を編集する)] チェックボックスをオンにし、[続行] をクリックします。新しい CD/DVD を選択し、[デバイス タイプ] で項目を選択し、仮想マシン上で CD/DVD ドライブをマッピングします。[Finish (終了)] をクリックし、ドライブを保存してメイン ダイアログ ボックスに戻ります。
16. [Finish (終了)] をクリックし、仮想マシンを作成します。

Power IQ を仮想マシンにロードする

1. 左側のペイン内のツリーで、[Power IQ Virtual Machine (Power IQ 仮想マシン)] を選択します。
2. [Console (コンソール)] タブを選択します。  をクリックして、仮想マシンの電源をオンにします。しばらくすると、Power IQ キックスタート ページが表示されます。
3. 仮想マシンにインストールするので「2」と入力し、Enter キーを押してインストールを開始します。
4. インストールには 20 分かかります。終了したら、Enter キーを押して、Power IQ 仮想マシンを再起動します。
5. 仮想マシンが再起動されると、コンソールのプロンプトが表示されます。

Power IQ の初期設定

Power IQ™ をインストールした後、ネットワーク経由でアクセスできるようにシステムを設定する必要があります。

1. Power IQ の電源をオンにします。
2. ログインを求めるメッセージが表示されたら、ユーザ名 *config* およびパスワード *raritan* を使用します。Power IQ の設定ページが開きます。



3. プライマリ Ethernet ポートを設定するために、[Networking Setup (ネットワークの設定)] を選択して、[Setup LAN 1 (LAN 1 のセットアップ)] を選択します。
4. スペース バーを押して、[Enable this LAN Port (この LAN ポートを有効にする)] を選択します。
5. Power IQ にネットワーク設定を手動で割り当てるには、[Use DHCP (DHCP の使用)] をオフのままにします。適切なフィールドに IP アドレス、ネットワーク マスク、およびゲートウェイを入力します。
6. [Accept (適用)] を選択して、新しい値でネットワーク インタフェースをリセットします。
7. セカンド ネットワーク インタフェースを使用している場合は、[Network Configuration (ネットワーク設定)] メニューから [Setup LAN 2 (LAN 2 のセットアップ)] を選択し、1 つ目と同

じ要領で、2 つ目の Ethernet ポートを設定します。これはオプションです。

8. [Ping Network Test (ネットワークの ping テスト)] を選択して、Power IQ でネットワーク経由の通信ができることを確認します。これはオプションです。
9. Power IQ への SSH リモート アクセスを無効にするには、[System Services (システム サービス)] を選択します。次に、[Enable SSH (SSH を有効化する)] の選択を解除します。デフォルトでは、config アカウントは Power IQ にアクセスできます。サポート接続が作成された場合は、SSH が再度有効になります。これはオプションです。
10. メイン メニューから [Exit (終了)] を選択します。これでネットワーク上の任意のクライアントから Power IQ にアクセスできます。

Power IQ に接続する

1. ネットワーク上の任意のマシンで Web ブラウザを使用して Power IQ に接続します。
2. ブラウザのアドレス バーに、Power IQ に割り当てた IP アドレスまたはホスト名を入力します。例 : <https://192.168.1.10> セキュリティ警告が表示されたら [はい] で応答し、すべての証明書を受け入れます。ライセンスは .LIC ファイルです。必要に応じて増分ライセンスを追加するには、このステップを繰り返します。

注 : ライセンス ファイルは、登録のアクティブ化後、Raritan Web サイトから取得できます。登録をアクティブ化するには、Raritan からの「Thank you for registering (ご登録ありがとうございます)」という電子メール内のリンクをクリックし、ユーザ アカウントを作成します。アカウントを作成したら、「Your Raritan software license key is available (Raritan ソフトウェア ライセンス キーを取得できます)」という電子メール内のリンクから、ライセンス ファイルのダウンロード ページにアクセスします。

3. デフォルトのユーザ名 *admin* とパスワード *raritan* でログインします。

システム クロックを設定する

Power IQ は、システム クロックを使用して、イベントおよびデータのレコードにタイムスタンプを付けます。イベントを正確に記録するために、できるだけ早くシステム クロックを設定してください。

NTP サーバを使用して、Power IQ およびその管理下の PDU の間でシステム クロックの同期を維持することをお勧めします。

重要 : PX から正確な表示値を得るためには、Power IQ および管理対象のすべての Dominion PX PDU に同じ NTP サーバを使用する必要があります。

NTP サーバを設定する

[タイム サーバの設定] 表には、Power IQ が日時情報を取得するためにアクセスする NTP サーバが一覧表示されます。まず NTP を有効にしておく必要があります。

Power IQ は、リストの一番上のサーバから日時を取得しようとし、失敗した場合は、リストの下に進み、2 つ目のサーバにアクセスし、その後は 3 つ目にアクセスする、というように進みます。

▶ **NTP を有効にし、NTP サーバを設定するには、以下の手順に従います。**

1. [設定] タブで、[装置の管理] セクションの [アプリケーション設定] をクリックします。
2. [時間設定] ボックスの矢印をクリックし、NTP 設定を展開します。
3. [NTP の有効化] チェックボックスをオンにします。
4. [追加] をクリックします。
5. [タイム サーバ] フィールドにタイム サーバの IP アドレスを入力し、[OK] をクリックします。
6. [時間設定の保存] をクリックします。

ポーリング間隔を設定する

各ポーリング間隔内に、Power IQ は管理下の PDU からデータを収集します。

▶ **ポーリング間隔を設定するには、以下の手順に従います。**

1. [設定] タブで、[装置の管理] セクションの [Power IQ 設定] をクリックします。
2. [ポーリング オプションの設定] ボックスの [ポーリング間隔] ドロップダウン リストで時間間隔を選択します。この時間は Power IQ で次のポーリング サイクルが始まるまでに経過する時間を表します。
3. [ポーリング設定を保存] をクリックします。

注：多数の電力分配装置 (PDU) を管理する場合、ポーリング間隔を長めに設定しなければならないことがあります。時間を長めに設定すると、すべての PDU が、指定されたサイクル内に確実にポーリングされます。Power IQ が、設定された間隔内にすべての PDU をポーリングできない場合は、警告メッセージが表示されます。

バッファ データを収集する

計画する管理対象が Dominion PX PDU バージョン 1.2.5 以上である場合は、Power IQ で、これらのデバイスからバッファ データを収集できます。これによって、Power IQ は、Dominion PX をポーリングするたびに、より多くのサンプルを収集できます。詳細については、ユーザ ガイドを参照してください。

Power IQ 管理への PDU の追加

Power IQ を設定した後、Dominion PX またはその他の PDU を管理対象として追加します。こうすることで、Power IQ はこれらの PDU のデータを収集できるようになります。

情報を含む CSV ファイルをアップロードして PDU を Power IQ に追加することもできます。詳細については、『Power IQ ユーザ

ガイド』の「CSV ファイルによる PDU の一括追加『4p. の“CSV ファイルで PDU を一括追加する”参照先』」を参照してください。この手順に従って、Power IQ に Raritan EMX を追加します。

▶ **Power IQ 管理に PDU を追加するには、以下の手順に従います。**

1. [PDU] タブで、[追加] をクリックします。
2. PDU の IP アドレスを入力します。
3. PDU がデジチェーン設定またはコンソール サーバ設定に組み込まれている場合、チェーンにおける PDU の位置番号またはシリアル ポート番号を [プロキシ インデックス] フィールドに入力します。

注：この種の設定に PDU がない場合、[プロキシ インデックス] フィールドは空白のままにします。

4. 資産タグ番号または他の資産管理コードを [外部キー] フィールドに入力します。これはオプションです。
5. データを [カスタム フィールド 1] と [カスタム フィールド 2] に入力します。これはオプションです。Power IQ では、これらのフィールドを識別するためにラベルが変更されている場合があります。
6. PDU が Dominion PX の場合、[Dominion PX 資格情報] セクションに PDU に対する有効なユーザ名とパスワードを入力します。[パスワードの確認] フィールドにパスワードを再度入力します。
7. SNMP バージョンを選択します。
 - SNMP バージョン 1/2c の PDU では、少なくともこの PDU に対する読み込み権限を持っている SNMP コミュニティ文字列を入力します。これによって、PDU のデータのポーリングが有効になります。PDU への読み込みと書き込みの両方の権限を持っている SNMP コミュニティ文字列を入力すると、電源制御、コンセント名の変更、およびバッファ データの取得が有効になります。
 - SNMP バージョン 3 の PDU では、ユーザ名を入力し、[認証レベル] を選択します。認証レベルは、次のとおりです。
 - noAuthNoPriv - 認証パスキーなし、エンコード パスキーなし
 - authNoPriv - 認証パスキーあり、エンコード パスキーなし
 - authPriv - 認証パスキーあり、エンコード パスキーあり
- a. 選択した認証レベルによっては、認証とプライバシーに対するその他の資格情報を入力する必要があります。
- b. 認証プロトコル：MD5 または SHA を選択します。
- c. PDU の認証パスキーを入力し、[認証パスキーの確認] フィールドにパスキーを再度入力します。
- d. プライバシ プロトコル：DES または AES を選択します。
- e. PDU のプライバシー パスキーを入力し、[プライバシー パスキーの確認] フィールドにパスキーを再度入力します。

注：Power IQ に追加されているすべての PDU に対して SNMP エージェントを有効にする必要があります。

8. [検索が完了した後で処理を続ける] を選択し、資格情報を検査し、この PDU を追加する際の検出プロセスのステータスを表示します。**これはオプションです。**詳細については、『Power IQ ユーザ ガイド』の「PDU 資格情報の検査」を参照してください。
9. [追加] をクリックします。

注：PDU 検索は、PDU モデル タイプが決定されると終了します。連絡先または場所の値などの SNMP フィールドは、このデバイスが初めて検出されるまで不明です。

追加された PDU は、PDU リストに表示されます。Power IQ で、センサー データに対する PDU のポーリングが開始されます。Power IQ で PDU のポーリング間隔を設定できます。詳細については、『Power IQ ユーザ ガイド』の「**ポーリング間隔を設定する**」『3p. 』を参照してください。

CSV ファイルで PDU を一括追加する

CSV ファイルをアップロードすることによって、PDU を一括で追加できます。

CSV ファイルをインポートする方法で PDU を追加する場合、Power IQ では PDU の資格情報は検査されません。資格情報が誤っている場合、PDU Credentials Invalid イベントが記録されます。一度に 100 を超える PDU をインポートすると、インポート中にポーリングが中断する場合があります。

ステップ バイ ステップ CSV テンプレート ファイルは、Raritan Web サイトの [Support (サポート)] セクションにある [Firmware and Documentation (マニュアル/ファームウェアなど)] からダウンロードできます。詳細については、<http://www.raritan.com/support/power-iq/> を参照してください。

▶ CSV ファイルで PDU を一括追加するには、以下の手順に従います。

1. [PDU] タブで、[アクティビティ] > [PDU を CSV ファイルからインポート] を選択します。[PDU のインポート] ページが開きます。
2. [参照] をクリックし、CSV ファイルを選択します。
3. [各 PDU が検出される際にインポート処理の進行状況を表示する] を選択し、検出処理の進行状況と結果ステータスを表示します。**これはオプションです。**
4. [インポートの開始] をクリックします。

次の操作

PDU を Power IQ の管理に追加した後、さらに以下のアクティビティを実行できます。

- 同じモデル タイプの複数の Dominion PX PDU を展開している場合に PDU の一括設定を実行する。

- Web ユーザ セッション タイムアウトや IP ベースのアクセス管理などの基本的なセキュリティを設定する。
- 管理者パスワードを変更する。
- ユーザを追加する。
- PDU およびコンセントをその電力供給先の IT 製品にマッピングして、エンタープライズ データ モデルを構成する。
- 電力使用量のレポートおよびチャートを作成する。

詳細な手順については、『Power IQ ユーザ ガイド』を参照してください。

その他の情報

Power IQ[™] および Raritan 製品ラインナップ全体の詳細については、Raritan の Web サイト (www.raritan.com) を参照してください。技術的な問題については、Raritan のテクニカル サポート窓口にお問い合わせください。世界各地のテクニカル サポート窓口については、Raritan の Web サイトの「Support」セクションにある「Contact Support」ページを参照してください。

Raritan の製品では、GPL および LGPL の下でライセンスされているコードを使用しています。お客様は、オープン ソース コードのコピーを要求できます。詳細については、Raritan の Web サイトにある「Open Source Software Statement」(<http://www.raritan.com/about/legal-statements/open-source-software-statement/>) を参照してください。